瀋陽だより

2015年2月号

報告者：東北育才学校
高井　奈央子

東北育才学校　について

（↓初中部（中学部）の校舎）

私が勤務している東北育才学校（遼寧省瀋陽市）は、進学校として地元でも有名です。中高一貫で、中学部は日本の占領時代に建てられた歴史ある校舎を一部使用しています。

中学部の日本語クラスは1クラス約50人です。日本の高校は1クラス40人、小学校ともなると30人学級なので、ずいぶんと人数が多いと感じます。生徒たちは皆素直で活発な子どもたちです。

生徒たちに「どうして日本語を選択したの？」と聞くと、大半の生徒たちは「アニメが好きだから」「漫画が面白いから」と答えます。日本のアニメ・漫画文化の影響は計り知れません。中には、私に面白い日本のアニメを教えてくれる生徒もいます。中国ではインターネット上でいろいろな番組を見ることができるので、かなり昔のアニメについても詳しいようです。

中国では日本のアニメがそのまま中国語字幕がついて放送されています。ほかの国では、それぞれの国の規制に従い、改変されたり、カットされたりしているので驚きます。野球があまりメジャーではない国なのですが、野球関連のアニメもそのままあるようです。インド版巨人の星はクリケットになっていたと思うのですが、これがおおらかな大陸の気風なのでしょうか。

授業は 1 日 9 時間！朝 7 時 40 分から 1 時間目が始まります。早いですね。中国の朝はとても早いです。朝食は外食になるのも頷けるというものです。授業が終わるのは夕方 4 時 30 分。部活動はありません。スポーツが好きなら、個人でクラブに入るか、家族で体を動かすかということになるようです。

日本の部活動は、アニメや漫画の題材としてポピュラーですが、そういったバックグラウンドがなくても、生徒たちは『ハイキュー』や『黒子のバスケ』が大好きです。

ちなみに、学校の先生方で日本のドラマを見ている方も多いです。「どうしてドラマ『昼顔』は、あんな終わり方なんですか？離婚して、好きな人と結婚したらいいのに、あれが日本式なのですか？」と聞かれたこともあります。日本式かどうかは分かりませんが、ドラマの終わり方の評価にも、その人のバックグラウンドや国の文化が関わっていて、興味深いと感じます。

2 月と言えば、春節です

（↓スーパーの春節グッズ売り場）

「中国で一番重要なお祭りは、春節です」と中国語のテキスト例文にもあるほど有名な中国最大の祭日「春節」。

今年は 2 月 18 日に始まりました。日本でも「中国の工場がストップしてしまう期間」ということで、製造業界の人たちはしっかりこの日付を把握しているようです。また、日本の都会のデパートでは、訪日観光客を対象に春節に合わせて高級福袋が販売される

など、日本人の生活にもだんだん浸透しつつあるイベントです。

左の写真は春節シーズンのスーパーです。春節直前には、年越しの支度をするために客が殺到し、買い物かごがなくなるほどの混雑ぶりでした。

大きなカートに山盛りの商品をのせ、レジに向かう人たちは、春節と家族団らんを楽しみにしながら地下の駐車場へ向かっていきました。

春節自体は 2 月 18 日なのですが、2 月 18 日の 1 週間ほど前から、街全体が春節のために動き出しているように感じました。2 月 10 日頃から、夜に爆竹や花火の音が聞こえるようになりました。街も春節に向けて華やかに彩られ、私の住んでいる太原街では氷のモニュメントが設置され、親子連れが写真をとる絶好のスポットになっていました。日本の年始と違い、「みんなが故郷に帰る期間」なので、1 週間休みになるお店も珍しくありません。この期間は、故郷で家族とともに縁起物の魚料理や餃子を食べるのが慣例です。街を歩いても、いつもよりずっと人が少ないです。「魚」は中国語の発音で「余」に通じるので縁起が良いとされています。なんだか日本のおせち料理で「豆」や「昆布」が使用されるのと似ていますね。

運悪く自分の部屋の家電に不具合が出たので、電気店に行ったところ、そこの店員（副店長）さんは次のようにこぼしていました。

「休日だから、いつもの 3 倍の給料を出すことになっているが、日本と違って、正月にたくさん客が来るわけではない。店としては儲からない。･･･実は私も故郷に帰りたい。」

これは年中無休や 24 時間営業の負の側面なのかもしれません。「便利である」ということは、それを支える人たちの我慢によって支えられていることが往々にしてあります。あまりにも便利さを追求するあまり、人生は何のためにあるのか、ということを見失わないでいたいものです。私は中国で生活するようになって、「多少不便でも、おおらか

に生きることができるならそれでいいのではないか。」と思うようになりました。中国にはぜひ、おおらかさを失わないでいてほしいものです。

2 月 18 日の夜は、夜通し爆竹と花火で新年のお祝いでした。夜 8 時頃から花火や爆竹の音が増え始め、夜 12 時をピークに、深夜 2 時頃までずっと爆音が絶えませんでした。この日中国でどれだけの花火と爆竹が消費されたのか想像もつきません。

ただ、一昨年から春節の花火や爆竹を減らすようにとの政府のお達しがあったらしく、かなり規模は小さくなったと聞いています。「昔なら広場で新年祝賀のイベントがあったけど、今はもうないよ」という話も聞きました。なぜ規模を縮小するようになったのか尋ねたところ、「PM2.5 対策のため」という答えでした。確かに翌朝は空が煙っていました。

春節がこのまま縮小していくのか、それともしばらくしてまた規模拡大に転じるのかは分かりませんが、1 年間一生懸命働いた人たちが、たとえ数日でも家族と一緒に過ごすのはとても大事なことだと思います。

こうして実にエネルギッシュに新しい 1 年の始まりを祝い、気力を充電して中国の人たちは新しい年を迎えます。春節シーズン最後の日（2 月 25 日）の朝 8 時 30 分ごろ、再び花火と爆竹のピークがありました。本格営業再開・新しい年のスタートを知らせる音とともに、中国は来年の春節を目指して動き始めました。

（↑夜通し続く花火と爆竹）